

百合系コミックにおける女性同性愛の特質と描き方を巡る研究 - 友情と恋愛の近似性と異質性に眼を向けて -

大田原 康裕

日本では女性同性愛を指す隠語として「レズ」が用いられているが、これと似たようで違う「百合」という単語もある。女性同性愛の隠語の一つではあるが、現在実際に使われる場合、友情とも性愛とも違うように使われている。本研究では、百合系コミックとその読者に焦点を当て、その性質により百合の受け取り方、イメージする意味合いが変わるのか、ここに生まれる近似性と異質性に目を向け、百合という言葉の本質を探る。

本研究では百合という言葉の受け取り方の差を見るため、なるべく性意識の違う人物を被調査者とすることを考え、自身の性別、性対象について自覚的な6名に個別に半構造化インタビュー調査を行った。被調査者の年代による影響を排除するため、20代前半に対象を絞っている。それぞれには百合と似た言葉である友情・レズとの違いや、百合作品の独自性、また現実とフィクションとの違いについて考えることなど、自身の置かれている立場により回答が変わると予想される質問を用意した。

インタビューのそれぞれの回答について分析を行なうと、百合の定義を女性同士の愛情、とする回答が得られたが、その中では作品自体を指したものの、恋愛感情自体を指したものの、恋愛感情に準じる感情も含む、と様々に分かれる。これは百合という単語の多様性を示していると言える。また友情との違いについての質問では、百合と友情とは別物であり、その違いは肉関係であるとの回答が複数みられた。これは実際の性交渉描写だけでなく、それを感じさせる内容であれば友情ではない、との回答を得ている。現実とフィクションとの違いについては百合系コミックをフィクションとして捉えているとの回答が多い。それ故か、現実感を与える性描写や、映像媒体に付く音声の生々しさを嫌悪する回答が見られる。また同性愛が当たり前存在する世界観を好むとする回答が複数得られている。百合とレズの違いについては、その主となる内容が性描写にあるかどうかで判断しているとの回答が得られた。また百合作品独自の面白さについて、現実とは違う華やかな世界に感じる非日常性や、異性愛の恋愛を描いた作品とは違うストーリーの独自性、男性が存在しないことによる神聖性、禁断の関係に対する興奮、といった回答が得られた。

今回の研究では、被調査者の性意識の違いがある中で考えの近似性、異質性から百合の独自性を探ろうと試みたが、百合の多様性を認めるに留まっている。これは、調査対象者に多様性を求めたこと、一方で対象とした人数が僅少であったことが要因であろう。今後、この研究をより深めるためには調査対象者のさらなる広範さ、併せてより多くの絶対数が必要だと考える。また一方で、今回は読者側の調査に留まっているため、百合系コミック作品そのものについての量的な調査・研究、また百合作品関連の制作者側に対する調査等が、今後の百合研究にあらたな展望を開く助けになることだろう。

(指導教員 後藤嘉宏)